

【スワルスキー放飼後の注意点】

2016/10改訂

<スワルスキー放飼後の殺虫剤について>

下記薬剤を推奨します。ご利用の作物で登録のあるものを利用してください。

対象病害虫	影響の少ない殺虫剤 (※2. をご参照ください)	若干の影響あり (放飼数週間後、カブリダニの数が葉当たり1頭を超えてから使用する。連用しない)
アザミウマ類	マイコタール、ポタニガード水和剤、プレオ、マッチ、ベストガード、スタークル/アルバリン、カウンター、ベネビア	バリアード、アクタラ、ダントツ、アドマイヤー
コナジラミ類	マイコタール、ポタニガード水和剤、スタークル/アルバリン、ベストガード、ベネビア	バリアード、コルト
アブラムシ類	チェス、ウララ、スタークル/アルバリン、ベストガード、ベネビア	バリアード、コルト
ハダニ類	ダニサラバ、スターマイト、カネマイト、ニツソラン、ダニコング	気門封鎖系薬剤 (粘着くんなど: スポット散布)、マイトコーネ
ホコリダニ類	スターマイト、カネマイト	
ハモグリバエ類	プレバゾン、プレオ、マッチ、トリガード、カウンター、ベネビア	
ヨトウ類 タバコガ類	プレバゾン、プレオ、マッチ、フェニックス、ノーモルト、ファルコンマトリック、ロムダン、BT剤、カウンター、ベネビア	
カイガラムシ類	スタークル/アルバリン	アプロード

※1. 上記の薬剤以外は天敵に影響がある可能性があります。特にアディオン、アーデント、アグロスリン、アザミバスター、ロディーなどの合成ピレスロイド剤や有機リン剤、カーバメート剤、ハチハチ、ピラニカ、サンマイト、ダニトロン、アプロードエース、ダブルフェース、モベントなどは天敵に大きく影響するので使用できません。また、天敵の放飼前にこれらを散布していた場合はスワルスキーカブリダニ(以下スワルスキー)がうまく定着しないことがあります。

※2. 果菜類のアザミウマ、コナジラミ防除でスワルスキーを効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。

<スワルスキー放飼後の殺菌剤について>

- ・モレスタン、ジマンダイセン、ビスダイセン、ペンコゼブ、マネージM、テーク、リドミルMZ、カーゼートPZ、フェスティバルM、クリーンサポート、ポリオキシシン、ポリベリン、ダイアメリットDF¹などの利用は避けることを薦めます。
- ・硫黄のくん煙は1回当たり2~3時間以内で行なってください。

- ・スワルスキーカブリダニは、トマトではうまく定着できないので、使用は控えてください。
- ・ピーマンなどでは、餌となる害虫が少ないときに花数が減るとスワルスキーが減少することがあります。花数が増えれば花粉を餌にして再び増えてきますが、できるだけ花数を維持するように管理してください。
- ・摘葉で取り除いた葉などにスワルスキーが残っていることがありますが、病害虫管理の面からもハウス外に捨てて構いません。但し、放飼後2週間以内に摘葉した場合は、除去した茎葉を株元に設置し、しばらく経ってから捨ててください。
- ・葉面散布剤の使用は可能ですが、機能性展着剤(スカッシュ、まくぴか、ミックスパワー、ニーズ、ブレイクスルーなど)はなるべく使用しないことを薦めます。
- ・かんきつのミカンハダニ防除では、無加温・厳寒期等の活動が出来ない時期の使用は避けてください。

スワルスキーと相性の良い微生物農薬～コナジラミ類、アザミウマ類に感染するカビの仲間～



「マイコタール」・「ポタニガード水和剤」

- ・スワルスキーにはほとんど影響が無く、施設栽培の野菜類で使用可能 (農薬散布回数にカウントされない)
- ・プレオ、マッチ、ネオニコチノイド系薬剤などと混用すると効果的



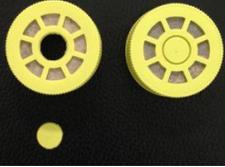
スワルスキーと併用できるハダニ類の天敵

「スパイカルEX」・「スパイカルプラス」

- ・スワルスキーと同じく定着しながらハダニを防除
- ・施設栽培の野菜類などで使用可能
- ・放飼後の管理(使用薬剤など)はスワルスキーに準じる



スワルスキーの放飼における注意点



- ・なるべく全ての株に放飼すること。
- ・地面に落ちないように、水平な葉の上にやさしく乗せる。
- ・放飼途中で足りなくならないよう注意する。

放飼方法

1. 放飼前

スワルスキーカブリダニは容器内に偏在しています。放飼前に容器を10分程横向きに静置します。放飼直前にゆっくり10回転させて、スワルスキーカブリダニが均一になるようにしてから放飼します。(→右図)



2. 放飼準備

- i) 減り具合をチェックできるようにマジック等でボトル側面に4等分程度の目盛り線を書きます。
- ii) 指で蓋の真ん中にある切り込み線の入った小窓部を押します。
- iii) 蓋を空け、小窓片を完全に取り除きます。
- iv) 小窓の開いた蓋をボトルに取り付けて放飼します。



- i) ボトルの側面に線を引きます。



- ii) 上から指で小窓を押します。



- iii) 内側から小窓片を取ります。



- iv) 小窓の開いた蓋を戻します。

3. 放飼方法

- ☑ 一振りずつ、なるべく**全ての株**に放飼します。
- ☑ 地面に落ちないように葉の上に乗せてください。
- ☑ 10a当り2~3本が目安です。
- ☑ 放飼穴(小窓)が小さいため、約350~400回振ることができます。
- ☑ 栽植本数が多い場合は振る力を加減して回数を増やしてください(約500回まで可能)。
- ☑ 最初は少なめに、余ったら害虫の発生が多い場所に重点的に振ってください。
- ☑ ボトルを横にして指で叩くようにすると少量の放飼が可能です。



4. 放飼後

- ☑ 放飼後は、蓋とボトルを株元に横向きに静置してください。残ったカブリダニが歩いて外に出て行きます。(→右写真)
- ☑ スワルスキー放飼後1週間は、薬剤散布をしないでください。



5. 上手な使い方

スワルスキーは、アザミウマの若齢幼虫やコナジラミの卵と若齢幼虫を捕食しますが、これらの成虫は食べられません。そこで、体系防除のおススメ！
ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマが発生する圃場では、必ず粘着板『ホリバーブルー』(右写真)を使いましょう。
各ライフステージできっちり防除し、次世代の密度を抑制しましょう！



天敵農薬に関する情報を定期的にお届けします。「IPM通信」配信ご希望の旨と、ご住所、ご氏名、栽培作物、メールアドレス(携帯不可)を下記メールアドレスへお知らせください。 tenteki@arysta.com